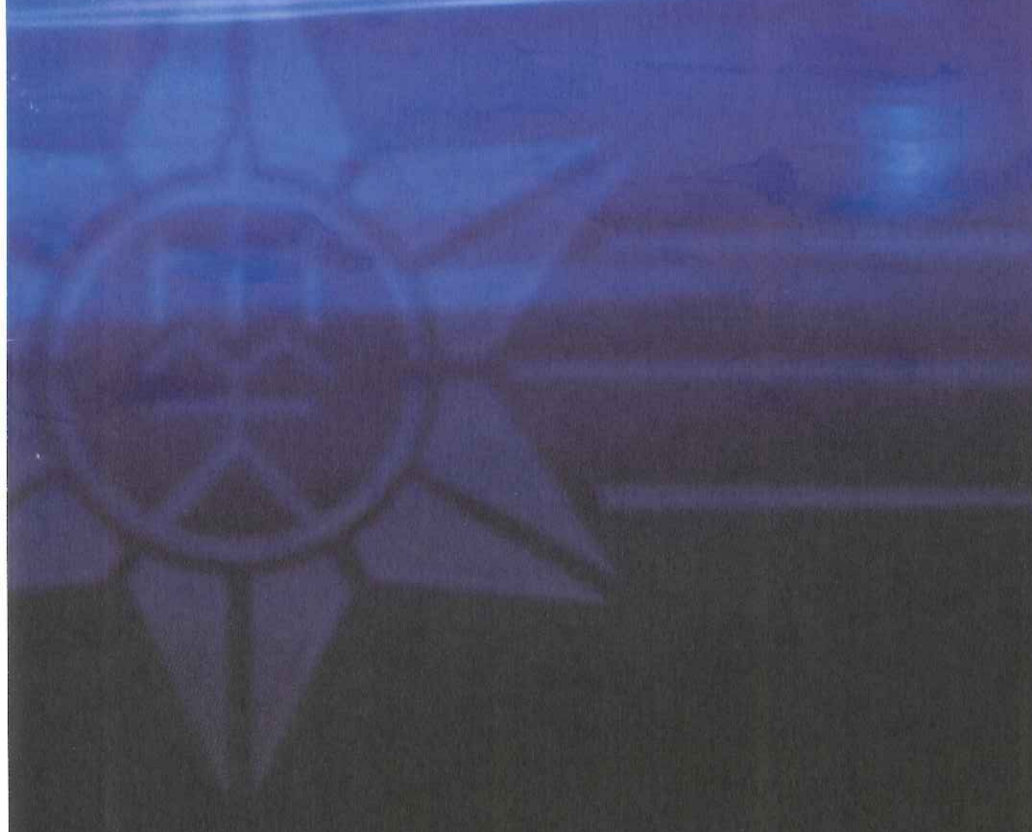


自彊百年

大阪府立市岡高等学校
1901~2001



大阪府立市岡高等学校校歌

[明治39年制定]

一柳安次郎 作詞
大橋純二郎 作曲

♩ = 112

ひがし - た い こ - の み ず う け て
 よう - よう - に - し - に に じゅう よ り
 な が れ て や - ま - ぬ で ん こ う - の
 な み じ の す - え - の み お つ く し
 どりよ く の う - し - お わ が り よ - と
 い そ し む け - ん - じ せ ん ご ひ ゃ く

一、 東大湖の水を受けて
 溶々西に二十餘里
 流れて止まぬ瀬江の
 浪路の末の濤標
 努力の潮我が領と
 いそしむ健児千五百

二、 生駒の山に春立ちて
 和樂の風は窓に充ち
 協同和衷の花にほふ
 自然と人と相まちて
 光榮著き家族制
 永久に榮ゆく校風や

三、 今錦城の夜はあけて
 白強の鐘は高鳴れり
 理想の光照りそひて
 優柔の魔は影もなく
 見よ剛健の花かをる
 市岡健児意氣高し



青春讃歌

〔昭和15年制作〕

境 幸政 作詞・作曲

- 一、紫緑鮮けき六甲の
風す冬風身にまとひ
茅渚の怒濤の散るところ
清浄白亜の学堂に
学ぶ若人四百人
溢るる青春熱と意気
- 二、静夜の月は朧々と
乳白の気の流るとき
木葉に高き風音も
青春甘美の調べあり
榮々若き日に想う
理想の嶺の遠きかな
- 三、自己沈潜の友情と
学窓に逝く四春秋
青春去りぬ帰去来の
白雲浮標の夢に似て
遠き甘美の追憶に
涙流すも近き日か



大阪府立市岡高等学校百周年記念関連事業の概略

平成10年(1998)6月●“市岡の森”完成

同窓会が百周年の第1回目の事業として、大阪湾北港“舞洲”に桜約1,000本を植樹し、記念碑を建て、“市岡の森”と名付けられた。そしてこの森が市岡の象徴として、又母校を懐かしみ、同窓の心と心をつなぐ絆として、いつまでも親しみ続けられる事を願うものである。



平成13年(2001)2月3日●“市岡の森”ウォークラリー

- 毎年2月、学校の行事として耐寒行事を行っているが本年は“市岡の森”のある北港舞洲にて行う事とし、PTA、同窓会、田龍会の方々にも参加を呼びかけ、快晴の下、生徒、職員、OB約1,100名が参加し、耐寒行事はとどこおりなく終了した。

平成13年(2001)4月14日●創立百周年記念吹奏楽部定期演奏会

[大阪市立こども文化ホール]

平成13年(2001)9月1日●創立百周年記念第28回音楽鑑賞会

[ザ・シンフォニーホール]

音楽鑑賞会は、昭和49年(1974)から第2学期始業式後に開催しております。

新学期をクラシック音楽で始める本行事も今年で28回目を迎えました。

本年は百周年でもあり、大阪北地区大会で金賞、府大会で銀賞を受賞した

本校吹奏楽部が初めてこのホールで演奏しました。

この行事はマスコミにも紹介されています。

本年は特に百周年という事でPTA、同窓会員併せて124名が参加されました。



平成13年(2001)9月16日●文化祭

創立百周年記念特別企画として下記が特別出展されました。

“生物部OB展・美術部OB展”

“小出権重(旧中2期)作品展”

“直木三十五(旧中5期)、ジェームス三木(高校6期)紹介展示”

平成14年(2002)4月着工予定●百周年記念会館建設

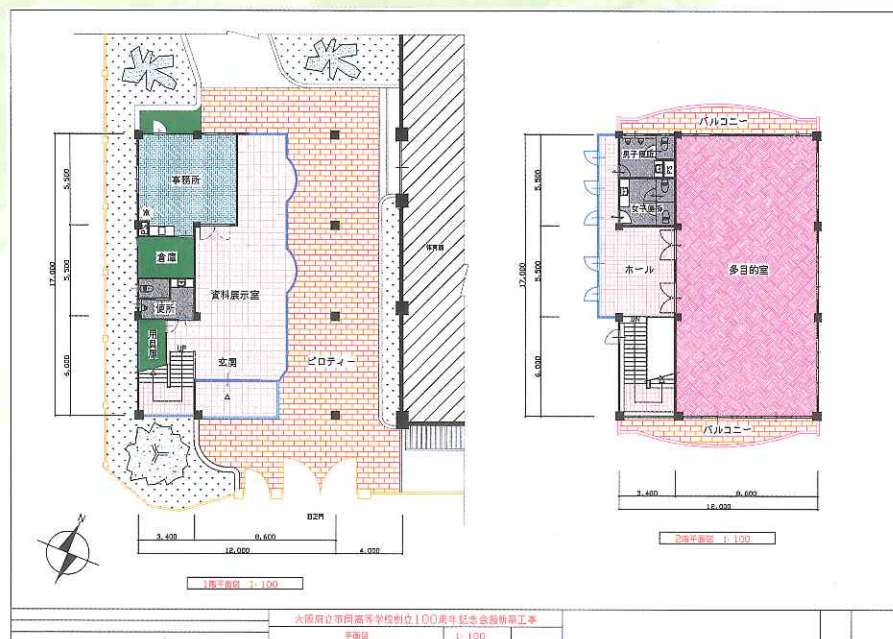
総床面積369.63㎡ 旧正門付近

1階 同窓会・田龍会事務所、資料展示室、ピロチー

2階 多目的室、ホール (120名収容)



完成予想パース



完成予定平面図

大阪府立市岡高等学校百周年記念式典 次第

平成13年(2001)11月17日 10:00～12:00 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

1. 開式の言葉

百周年記念式典委員長 能村龍太郎(旧中35期)

2. 校歌斉唱

3. 創作詩朗読

作：ジェームス三木(高校6期)

4. 市岡100年の歩み(VTR)

5. 送別の歌

(物故者を偲び)

6. 式辞及び祝辞

大阪府立市岡高等学校長 浅田旭彦
大阪府知事 太田房枝
大阪府議会議長 古川光和
大阪府教育委員会教育長 竹内 脩

7. 来賓紹介

8. 箏曲部演奏

(在校生・卒業生)

9. 吹奏楽部演奏

(在校生・卒業生)

指揮：潮見裕章

10. 合唱

(現役1～3年生の音楽選択生および有志)

指揮：広瀬敬子

11. 合同演奏

(現役1～3年生の音楽選択生および有志・吹奏楽部)

12. 同窓生から在校生へのメッセージ

13. 在校生の誓いの言葉

14. フィナーレ

総合プロデュース

山内久司(朝日放送)高2期

司 会

安藤 豊(RKB毎日放送アナウンサー)高17期
植田佳奈(声優・神戸女学院大学3回生)高51期

大阪府立市岡高等学校百周年記念祝賀会 次第

平成13年(2001)11月17日 13:00～15:00 リーガロイヤルホテル「光琳の間」

1. 開宴のあいさつ

大阪府立市岡高等学校長 浅田旭彦

2. 乾 杯

百周年記念式典委員長・同窓会会長 能村龍太郎(旧中35期)

3. 祝 宴

4. ショータイム

ギター演奏 吉川二郎(高校22期)

ラテンコーナー

ハワイアンフラダンス

5. 田龍会アワー

田龍会会長あいさつ 森田博文(田龍18期)

地車ばやし

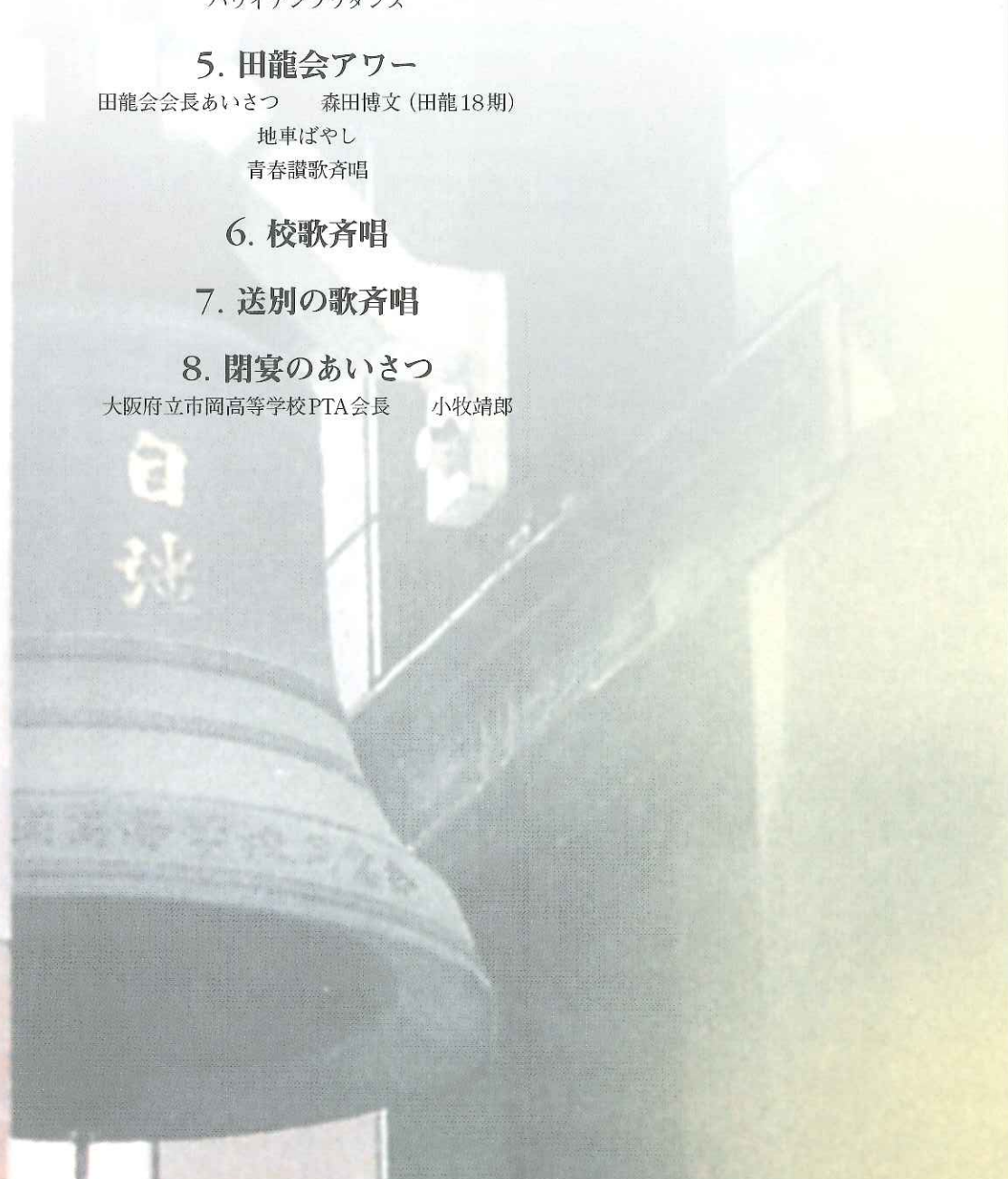
青春讃歌斉唱

6. 校歌斉唱

7. 送別の歌斉唱

8. 閉宴のあいさつ

大阪府立市岡高等学校PTA会長 小牧靖郎



ごあいさつ



校長
浅田旭彦

皆様方のご臨席を仰ぎ、本校の創立100周年記念式典を盛大に挙行出来ますことは、関係者の大きな喜びでございます。また、本校と親しくおつきあいをいただいています、オーストラリア、中華人民共和国、大韓民国、ベトナム社会主義共和国の在大阪総領事館からもおいで下さり、世界に開かれた学校をめざす本校に、一段と華を添えていただきましたことも、併せて厚く御礼申し上げます。

本校は、20世紀元年の1901年に、大阪府立第7中学校として産声をあげ、大阪府立市岡中学校となり、その後の学制改革により校名を大阪府立市岡高等学校と改め、現在に至っております。

この100年間学校の所在地は、変わらず現在と同じ大阪市港区市岡の地にあり、世に多くの人材を送り出したことは、私たちの誇りとする所ではありますが、これは、永年にわたり皆様方が暖かく見守り育てていただいた賜物と、深く感謝いたしております。

本校には、学校創立以来「自強の精神」が脈々と伝えられています。これは、志や夢を持ち、それに挑戦しようということでありませぬ。

このことを胸に、私たち市岡に集う者は、人類の英知を担う役割を果たせるよう邁進する中で、本校の第2世紀目の歴史を綴る所存でございます。

今後とも、変わらぬご支援を賜われますよう、お願い申し上げます。



同窓会会長
能村龍太郎
(旧中35期)

市岡高校創立100周年記念式典にご参列賜り誠にありがとうございます。

さて、我が母校市岡高校は、明治34(1901)年に創設され、一貫して「自強」と「家族制」を校風として、幾多の有為なる人材36,000余人を世に輩出し社会的に貢献して参りました。

本日の記念式典では、100年の歩みの映像や卒業生と在校生との交歓等の盛り沢山なプログラムを用意しておりますので、大いに喜んで、楽しんで、感動して頂き、この100年の間に培ってきた輝かしい歴史と伝統をこれからの21世紀に向かっても受け継いでいこうではありませんか。

このように盛大なる記念式典を開催することが出来ますのは、学校当局、同窓会、田龍会、市友会、PTA、後援会等の関係各位の熱意と物心両面よりのご協力の賜物であると心より感謝申し上げます。

なお、お時間が許せば、式典のあとの祝賀会にもご参加頂きますれば幸甚に存じます。



ご あ い さ つ



田龍会会長
森田博文
(田龍18期)

21世紀の到来と共に創立百周年を迎えた大阪府立市岡高等学校の栄えある記念式典に、同じ市岡高校の一員として参加できることは感激の極みであります。

昭和8年(1933)日本で最初の公立夜間中学として創設され戦前戦後を通じて夜に学んだ私達の母校は平成10年(1998)3月末をもってその幕を閉じましたが、市岡に籍を置いた大きな誇りと情熱、そして何ものにも負けない忍耐力と行動力により今日の自分の姿があると堅く信じております。

平成10年(1998)舞洲に完成した『市岡の森』には、「全」「定」交流の象徴である田龍会寄贈の八重桜『楊貴妃』が訪れた私たちを喜ばせ励まし更には勇気を与えてくれております。

田龍会員は残念ながら最早増えることはありませんが、諸先輩が培われ伝承されてきた田龍の魂は会員全員に受け継がれ、『田に在り、天駆ける日を望みて灯火のもとに励みし、若き龍の在りし青春の思いを、ここにとどめて』と、青春讃歌と輝ける65年の歴史を刻み込んだ記念碑は市岡高校正門横に建立されております。

市岡高校定時制の灯は消えましたが、この灯がNPO市岡国際教育協会(日本語教室)へ引き継がれ地域の国際交流に貢献していることを尊び、市岡で教えられ培ってきた田龍の心を永遠に持ち続け伝えていきたいと思っております。

最後に、新しい世紀に意義ある百周年を迎えられた大阪府立市岡高等学校が益々で発展されんことを心よりご祈念申し上げます。



市友会会長
上杉龍彦
(高校16期)

本日、ここに、創立100周年記念式典が挙行されますことを、心からお慶び申し上げます。

市岡高校は、明治・大正・昭和・平成と20世紀の100年間を、「自強の精神」のもとに、多くの人材を育てあげ、大阪はもとより、日本社会の発展に大きく貢献し、輝かしい歴史と伝統を作ってきました。

これは、偏に歴代学校長をはじめ、教鞭を執られた先生方すべてのご努力と、同窓会、田龍会、市友会、後援会、PTAの皆様の暖かいご支援とご協力の賜物と心より敬意を表します。

今後も、市岡高校が、新しい教育の流れである国際交流とITの推進で、21世紀の世界中で活躍する人材を育成され、更なる飛躍と発展を遂げられ、新たな100年の歴史と伝統を築かれんことを心より願っております。



ごあいさつ



PTA会長
小牧靖郎

市岡創立100周年を心よりお祝い申し上げます。

本日は、市岡高校創立100周年記念式典にご参列賜り誠にありがとうございます。多くのご参列のもとで、本日の記念式典を開催出来ます事は、関係者一同大きな喜びとするところであります。

本校が旧制中学当時より、一世紀の永きにわたり、浪速の名門市岡の名声を保ち続けてきたことは、ひとえに歴代校長をはじめとする教職員の皆様の絶え間ない努力、同窓会、田龍会、PTA会員他関係者のご支援、御協力の賜物と感服せざるをえません。皆様方の市岡を愛する気持ちが、今日まで受け継がれ私もその一端を担う事が出来た事を光栄に思います。

21世紀は、教育の時代と言われている昨今、伝統ある市岡高校の役割は非常に大きく、その動向は関係者の注目する所です。

本校は、オーストラリア語学研修を通しての国際交流の活性化、又学校教育点検の実施、学校協議会の設置、授業の公開等情報を公開し、社会の変化に対応できる教育が出来るよう準備されています。

本日の記念式典は、映像を通しての100年の歩み、在校生の出演など他に例を見ない斬新な内容になっており、良き伝統を引継ぎ、又伝統の殻を破って新しい事へチャレンジする市岡の次の世紀に賭ける意気込みを感じていただける事と思います。

新しい教育の流れを創造する先駆者として、本校が新しい世紀に向かって一層の飛躍と発展を遂げられん事を心よりお祈り致します。



後援会会長
嶋倉裕之

2001年、21世紀の初めの年に市岡高等学校創立100周年を迎え、まことにおめでとうございました。

創立100周年、言葉で言いますが簡単ですが、実に1世紀。この間2度の世界大戦、戦後の廃墟からの復興、経済大国、バブルの崩壊など激動の世紀を乗り越え、市岡高校は経済、教育、芸術、スポーツ等全ての分野において、優秀な人材を輩出してまいりました。

これは偏に歴代校長先生をはじめ諸先生方の教育への情熱と同窓会、田龍会、PTA、後援会、市友会等会員各位の暖かいご支援の賜物と感謝申し上げます。

これからの21世紀も在校生、後輩へと『文武両道』『自彊の精神』が引き継がれ、さらに150周年、200周年と市岡高校がますます発展いたしますことを、心よりお祈り申し上げます。



大阪府立市岡高等学校創立百周年記念事業実行委員会役員

【会 長】 浅田 旭彦 (校 長)

【副 会 長】 能村龍太郎 (旧中35) 森田 博文 (田龍18) 上杉 龍彦 (市友会・高校16) 小牧 靖郎 (PTA)
嶋倉 裕之 (後援会)

【総務委員会】

委 員 長 篠原 陽 (高校4)
副 委 員 長 加藤 久子 (高校3) 中谷 義雄 (田龍18) 松田 啓治 (市友会) 前塚 悦子 (市友会)
清水 信雄 (後援会) 北村 章 (職 員)
委 員 堀 純一 (高校20) 木村 正敏 (高校23) 林 謙一 (田龍14) 山本 一行 (田龍24)
高木 昭子 (田龍30) 都甲まり子 (市友会) 末谷 哲 (市友会) 得能 洋子 (PTA)
出水 照子 (後援会) 山本 悦子 (後援会) 八十嶋敦子 (職 員) 松本 直也 (職 員)

【記念行事委員会】

委 員 長 田頭 政泰 (教 頭)
副 委 員 長 渋谷 俊昭 (高校11) 杉本 繁光 (田龍29) 上杉 龍彦 (市友会・高校16) 土居 昌子 (市友会)
来見裕美子 (後援会) 中田 博紀 (職 員)
委 員 山中 晋一 (旧中45) 小椋 勝 (高校5) 柏村 勝 (田龍20) 尾上 真一 (田龍43)
小島千恵子 (市友会) 竹本 康史 (PTA) 島田 初枝 (PTA) 垂水てい子 (PTA)
竹内 弓恵 (PTA) 藤波美津子 (後援会) 赤沢由起子 (職 員) 大竹 一平 (職員・高校25)

【建設委員会】

委 員 長 小谷 文彦 (高校4)
副 委 員 長 小野雄二郎 (高校16) 玄覚 正夫 (田龍9) 豊川 研一 (市友会) 和泉 哲夫 (市友会)
安田美智子 (後援会) 古藤 功 (職 員)
委 員 野村 界 (高校10) 張 志朗 (高校12) 大道 秀子 (田龍21) 森永 理之 (市友会)
矢成 章子 (市友会) 林 修 (PTA) 田島 保子 (PTA) 筈見 智子 (PTA)
白石うたえ (PTA) 杉山 明子 (PTA) 下飼手美恵子 (後援会) 北条 重宣 (職 員)

【財務委員会】

委 員 長 馬野 正敏 (旧中38)
副 委 員 長 大路 常次 (旧中38) 不動 正教 (田龍16) 坂本 涉 (市友会) 近藤かをる (市友会)
下山 妙 (後援会) 田中 洋一 (事務長)
委 員 益 正行 (旧中45) 城戸 敏男 (田龍17) 森本 悦子 (市友会) 古賀かおる (市友会)
西正美智子 (PTA) 和田 孝 (PTA) 野原 久美 (PTA) 増田 百合 (PTA)
木原 富子 (PTA) 蔡 清美 (PTA) 瀬戸山雅子 (後援会) 熊谷美津子 (主 査)

【記念誌委員会】

委 員 長 菊池 清 (旧中37)
副 委 員 長 冨林 昌 (旧中39) 栄 利秋 (田龍21) 大木 豊 (市友会) 菊池 誠一 (PTA)
土井 啓次 (職員・高校18)
委 員 隅田 勝巳 (高校3) 城山 武男 (高校4) 藤島 聖剛 (高校8) 中務 敦行 (高校13)
澤 敏弘 (高校18) 中村 幸子 (田龍21) 戎 一美 (PTA) 田中 昭美 (PTA)
中尾 氏子 (職 員) 杉本 英世 (職 員) 松本 直也 (職 員) 中田 博紀 (職 員)
中谷 修三 (職員・高校34) 緒方 稔 (旧職員) 西田 彰 (旧職員) 河合 孝 (旧職員・高校26)

【実行委員会事務局】

事 務 局 長 佐藤 充利 (高校8)
事 務 局 次 長 津守 信裕 (田龍21) 八尋 愛子 (市友会) 清原久留美 (市友会)
局 員 門田 英子 (後援会) 江畑 政彦 (職 員) 池野 雅与 (職 員) 本田 正行 (職 員)

【会計監査委員】 竹田 雅則 (高校7) 細川 洋一 (高校21) 中山 政夫 (田龍19) 水野 恵司 (市友会)
林 義春 (市友会) 若林 友子 (後援会)

1912 (明治45年・大正元年)

❖ 教室増築 平屋建を2階建に改築

1913 (大正2年)

❖ 生徒定員650名16学級に増加

1914 (大正3年)

❖ 柔剣術を正課に編入

1915 (大正4年)

❖ 市内4中学入学試験問題共通が各校独自になる

1916 (大正5年)

❖ 夏の第二回全国大会に
野球部準優勝



野球部準優勝のメンバー

1917 (大正6年)

❖ 生徒定員800名18学級に増加

1918 (大正7年)

❖ 豚汁会廃止

1919 (大正8年)

❖ 土曜半休実施

1920 (大正9年)

❖ 四校主催全国中学校庭球大会出場

1921 (大正10年)

❖ 創立20周年記念式挙行

1922 (大正11年)

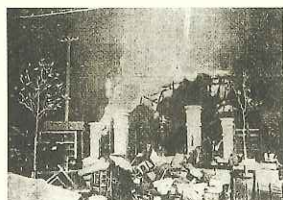
❖ 登下校時のゲートル廃止

1923 (大正12年)

❖ 制帽側章改訂

1924 (大正13年)

❖ 校舎焼失 12月1日、
夜半原因不明の出火に
より木造校舎の大半が
灰燼に帰した



火災により焼失した木造校舎

1925 (大正14年)

❖ 2年連続の落第者は訓示退学となる

1926 (大正15年)

❖ 新校舎竣工

6月、新校舎竣工。順次、講堂、
図書館等完成、
プール竣工



大阪随一の威容を誇った鉄筋校舎



大正末期から学校教練が実施されるようになった

1927 (昭和2年)

❖ 全国中学校長会議 本校講堂にて開催

1928 (昭和3年)

❖ 校舎新築落成式を挙行する

1929 (昭和4年)

❖ 大朝甲子園野球大会で準決勝に進む

1930 (昭和5年)

❖ 制服改訂

1931 (昭和6年)

❖ 滯標園(二代目) 創立30周年
記念事業として中庭に造成
❖ 同窓会発足 滯標会卒業生
部会が独立して同窓会となる



創立30周年記念二代目滯標園

1932 (昭和7年)

❖ 同窓会第1回総会を自習室にて開催

1933 (昭和8年)

❖ 市岡夜間中学校開設 大阪府立夜間中学校開設許可
(2月14日)、開校式(5月5日)

1934 (昭和9年)

❖ 9月21日、室戸台風のため校舎浸水(0.8m)

1935 (昭和10年)

❖ 保護者会創設総会開催

1936 (昭和11年)

❖ 31期生記念植樹(アカシヤなど30数本)
❖ 田龍会創設 夜間中学同窓会を田龍会と称す

1937 (昭和12年)

❖ 坪井初代校長の胸像除幕式を挙行
❖ 夜間中学第1回卒業式挙行

1938 (昭和13年)

- ◆満朝旅行出発 (7月20日～8月2日)

1939 (昭和14年)

- ◆補習科1学級増設、30学級に増加

1940 (昭和15年)

- ◆紀元2600年奉祝式挙行

1941 (昭和16年)

- ◆文部当局の命で濤標会は解散、報国団を組織し、部はすべて班と改称された

1942 (昭和17年)

- ◆信太山養正道場にて宿泊訓練始まる



信太山養正道場

1943 (昭和18年)

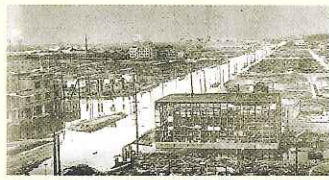
- ◆教育に関する戦時非常措置方策発表

1944 (昭和19年)

- ◆4年生1、2、3組中100名勤労奉仕

1945 (昭和20年)

- ◆3月、第一回空襲で木造校舎(濤標館、物理教室)焼失
- ◆9月18日、枕崎台風のため校舎浸水し、今宮中学校を借りて授業 (10月16日～11月6日)



空襲で焼土となり、枕崎台風で浸水した西大阪

1946 (昭和21年)

- ◆市岡中学校新聞「みおつくし」第1号発刊

1947 (昭和22年)

- ◆パネルディスカッション開催 (男女共学の是非)

1948 (昭和23年)

- ◆4月、学制改革に伴い大阪府立市岡高等学校となり、男女共学が実施され府立市岡高女・市立西華高女と生徒・職員交流した

1949 (昭和24年)

- ◆高校第一回卒業式 3月、高校第一回卒業式 (卒業生72名) この卒業生は昭和18年に旧制市岡中学へ入学、昭和23年中学43期生として卒業、さらに1年間新制高校(3年)に学んだ人である



高校第1回卒業生

- ◆講堂を改造、体育館に兼用

1950 (昭和25年)

- ◆市岡夜間中学校が大阪府立市岡高等学校定時制課程となる (4月1日)
- ◆9月3日、ジェーン台風のため校舎浸水 (1.5m)



ジェーン台風により浸水

1951 (昭和26年)

- ◆3月男女共学初の卒業式 (卒業生男子151名、女子106名)



初めて共学した三期生

1952 (昭和27年)

- ◆中庭花壇完成

1953 (昭和28年)

- ◆生徒定員1,000名となる (20学級)

1954 (昭和29年)

- ◆合唱コンクール開催 6月に音楽部主催で実施され、以後生徒会が中心となり恒例化される
- ◆二階柔道場復活、一階卓球場完成、二階図書館完成、東庭に生物教材園完成

1955 (昭和30年)

- ◆生徒定員1,200名となる (24学級)

1956 (昭和31年)

- ◆運動会の後、フォークダンス、ファイヤーストーム実施

1957 (昭和32年)

- ◆運動部室改装、女子更衣室建設

1958 (昭和33年)

- ◆授業開始・終了のサイレンが電動チャイムになる

1959 (昭和34年)

- ◆体育館竣工



東庭に待望の体育館竣工

1960 (昭和35年)

- ◆特別教育活動(2時間制)設ける

1961 (昭和36年)

- ◆創立60周年記念として新濤標会館竣工



濤標会館碑

1962 (昭和37年)

- ❖ 新館校舎、音楽室竣工

1963 (昭和38年)

- ❖ 視聴覚教室完成



視聴覚教室

1964 (昭和39年)

- ❖ 保健室・渡り廊下竣工、生徒文化部総合部室竣工

1965 (昭和40年)

- ❖ 「ベトナム戦争」の映画上映 合同展の一環として図書、映研、社研主催により開催

1966 (昭和41年)

- ❖ 新プール・テニスコート竣工

1967 (昭和42年)

- ❖ 教職員組合早朝スト

1968 (昭和43年)

- ❖ 校務分掌任命制に反対した生徒数名校長室占拠

1969 (昭和44年)

- ❖ 反戦高協、裏門にバリケートを築く
- ❖ 校務分掌をめぐる市岡学園紛争起る (昭和44年～45年)



学園紛争 (校庭で校長との団交)

1970 (昭和45年)

- ❖ 体育祭、クラス対抗形式から縦割りクラス対抗形式に

1971 (昭和46年)

- ❖ 70周年記念式典挙行 (本校講堂にて)

1972 (昭和47年)

- ❖ 制服自由化実施



みをつく志 第150、151号

1973 (昭和48年)

- ❖ 定時制40周年記念行事

1974 (昭和49年)

- ❖ 音楽鑑賞 二学期の始業式で大阪フィルハーモニー演奏会をサンケイホールにて鑑賞、以後恒例化



昭和51年9月1日夕刊

1975 (昭和50年)

- ❖ 耐寒登山 2月、岩湧耐寒登山を実施、以後恒例化



耐寒登山

1976 (昭和51年)

- ❖ 新入生オリエンテーション合宿 (滋賀県希望が丘) (51、52年度実施)

1977 (昭和52年)

- ❖ 30期生卒業式に皆勤賞設ける (男14、女13)

1978 (昭和53年)

- ❖ 食堂の拡張

1979 (昭和54年)

- ❖ 32期生卒業式にて校舎全面改築発表



正面玄関の身障者用スロープ

1980 (昭和55年)

- ❖ 校舎改築 (現校舎) 校舎の全面改築発表、西館竣工
- ❖ 定時制軟式野球部大阪地区優勝

1981 (昭和56年)

- ❖ 新体育館竣工



新体育館

1982 (昭和57年)

- ❖ 12月、新校舎東・西普通教室竣工

1983 (昭和58年)

- ❖ 教育委員会次年度人事方針 (同一校10年以上の教員の移動)
- ❖ 定時制50周年記念式典挙行

1984 (昭和59年)

- ❖ 旧校舎の解体・撤去工事始まる
- ❖ 特別棟及び管理棟竣工、新校舎へ全面移転

1985 (昭和50年)

- ◆新校舎全面完成 旧校舎全面撤去

1986 (昭和61年)

- ◆11月1日、新校舎改築記念式典挙行

新校舎落成祝賀同窓会



1987 (昭和62年)

- ◆第59回選抜高校野球大会出場



1988 (昭和63年)

- ◆学校機械警備化実施

1989 (平成元年)

- ◆留学生審査委員会設置

1990 (平成2年)

- ◆1学級定員46名に

1991 (平成3年)

- ◆市岡総合祭、「市岡祭」へ名称変更

1992 (平成4年)

- ◆名列表の名簿の順が女子が前に

1993 (平成5年)

- ◆男女混合名簿実施
- ◆定時制60周年記念式典挙行

1994 (平成6年)

- ◆同窓会百周年事業「市岡の森」募金開始

1995 (平成7年)

- ◆大阪府教育委員会が市岡高校を含む府立高校定時制6校の廃校を決定
- ◆第67回選抜高校野球大会出場



人、人、人で埋まった甲子園アルプススタンド

1996 (平成8年)

- ◆市岡高校日本語学校開設 (5月18日)



1997 (平成9年)

- ◆「大阪府・カリフォルニア州高等学校生徒交流事業」で2名受け入れ

1998 (平成10年)

- ◆市岡の森 6月12日、同窓会が百周年記念事業の一環として計画していた市岡の森が舞洲に完成、記念式典挙行
- ◆定時制課程廃校 最後の卒業式と閉校式を挙行
- ◆定時制課程廃校記念式典開催 (三井アーバンホテル大阪ベイタワー)

1999 (平成11年)

- ◆オーストラリア語学研修出発 (7月27日)



2000 (平成12年)

- ◆3年生進路講演会 (OBによる)

2001 (平成13年)

- ◆ウォークラリー (2月3日)
- ◆定期演奏会「吹奏楽部」(4月14日)
- ◆音楽鑑賞会 (9月1日)



- ◆文化祭 (9月16日~17日)
- ◆創立百周年記念式典 (11月17日)
- ◆創立百周年記念祝賀会 (11月17日)

市岡高校創立百周年記念式典出演者一覧

◆ 箏曲部 (在校生・卒業生)

奥野 綱子(高14)	田内 公子(高46)	大嶺 恵子(高47)	小野 和子(高51)	大西 寛子(高51)	新井 由里(高53)
山野 倫佳(高53)	松浦由加里(3年)	杉山こずえ(2年)	山本 絃子(2年)	大城 真澄(2年)	小野 雅子(2年)
浦井 由香(1年)	原 麻奈美(1年)	高田江里子(1年)	上田 歩美(1年)		

◆ 吹奏楽部 (在校生・卒業生) コンダクター：潮見 裕章

【フルート】	垂水 未和(2年)	中村 裕美(2年)	西本 敦子(1年)	藤林 晴子(1年)	【オーボエ】
土屋 大輔(1年)	【ファゴット】	小林 美甫(1年)	【クラリネット】	池之本 葵(2年)	國本 嶺華(2年)
鈴木まりこ(2年)	森元 照美(2年)	藤本 幸佑(2年)	安倍 沙織(1年)	覚正 美波(1年)	須田 夏美(1年)
福田 之絵(1年)	荒川 翔太(高53)	福井 梨香(高53)	【サクソ】	小川 結香(2年)	古家後宜之(2年)
中塚 侑花(2年)	花下 倫子(2年)	伊東加壽子(1年)	野路 由季(1年)	【トランペット】	大畑奈津子(2年)
萱間 萌(2年)	川崎 典晃(2年)	作用友里恵(2年)	佐伯めぐみ(1年)	赤塚 弘一(高42)	山岸 雄気(高51)
朝倉 誠一(高53)	【ホルン】	上原かおり(2年)	池田 利恵(1年)	金山 恭子(1年)	矢田 好美(1年)
【トロンボーン】	今井 理恵(3年)	齊藤 知佳(3年)	寺地 佑治(3年)	岩尾 琢磨(2年)	笹子あゆみ(2年)
鷹羽 千尋(1年)	【ユーフォニウム】	増村 裕美(3年)	井上 愛美(2年)	【チューバ】	湯佐 佳行(3年)
衣笠 隼平(2年)	【パーカッション】	石原昭太郎(3年)	下迫田麻衣(2年)	和泉 良祐(高53)	泉谷沙貴子(高53)

◆ 校歌斉唱および誘導案内 (1～2年生運動部部員)

◆ 創作詩 朗 読：秦 真莉子 (演劇部・2年)

◆ 送別の歌 バイオリン：吉田 絃子 (京都市立芸術大学4年生・50期)

ピアノ伴奏：米原愛恵美(2年) 編 曲：松原 伸行(2年)

◆ 誓いの言葉 福島 清香 (前期生徒会長2年) 鈴木 琢也 (後期生徒会長2年)

◆ 合 唱 [ハレルヤコーラス、For the beauty of the earth]

合唱指導および指揮：広瀬 敬子 (音楽科教員) ピアノ伴奏：采井 美幸 (3年)

合 唱：市岡高校1～3年音楽選択生および有志 演 奏：吹奏楽部 (在校生・卒業生)

【3年】	大森 洋一	城戸 孝徳	木村 明里	田鳥 淳史	真弓 絢子	宮本 和也	佐野 礼子	中山亜希菜
野原 巴	橋川 真一	富家 太一	山川 薫	森田 俊之	足立 史織	高嶋 智恵	岩城明日実	杉本 巴
照喜名美幸	出来島沙織	東山 豊	福田 智子	藤井 高歩	山本 佳奈	金原 麻子	中村真由美	松田 美保
尾本 咲良	桑原 里奈							
【2年】	上地 由夏	澤田 拓	島田理恵子	富田 銀河	永井 秀和	永島 仁志	西俣 学	平谷 沙紀
松浦 俊介	横山清二郎	芦田 洋子	大堀 南実	川坂 文太	岸部 智之	古迫 健太	鈴木亜里沙	寺本 杏美
畑 利幸	秦 真莉子	松越 彩子	松原 伸行	山崎 茜	山下 理沙	山根 宏介	米原愛恵美	ラズアンソリュ
奥田 真也	賀川 武士	岸本奈津美	塩飽 沙織	竹下 真由	土居 真弓	中村 千恵	濱中 心平	東垣 麻実
廣田 良輔	藤原 裕介	岩崎 暁	遠藤 一樹	大西 泰平	岡野 祥子	奥村 康祐	川端美希子	北 佐和子
鈴木 琢也	須之内 翔	都筑 舞	西岡 智章	前田 和亮	山村絵里香	山本真由美	池田 夏樹	恵美 智之
大島 信行	黒田 勢一	竹内 品康	鶴田 良昌	中野 俊介	松浦 史幸	吉田 翔	天野 京	川野 瞳
楠木 定宏	黒須 正宜	小林 里名	白澤 拓也	杉山こずえ	津川 敏之	鶴田 正彦	中井 裕介	中村 友美
福井了知子	松尾真由美	松岡綾寿華	道角 良子	宮内 巖樹	安田 淳	奥林 佳樹	長田 結子	杉野 優貴
高山 朋子	露峯千紗子	中村 俊介	西村友希子	則本 公恵	藤田 唯	松井 涼子	三ツ木有希	村上 澄恵
安岡 真希	山田 高大	山本 美咲	米倉 祐記	内山 佳子	金田 百合	河音 憲	國吉 明浩	小杉 政嗣
嵯峨根正絃	田中 健太	谷岡沙耶佳	仲野 桃江	馬場 祐志	福尾 梓	福嶋 清香	三木 誠之	水谷 裕佳
室津小百合	山田 望	山本 祥子	米澤 隆洋					
【1年】	浅田 礼佳	大汐めぐみ	北岡 芳規	北村 香苗	小林 礼子	酒崎 裕美	常德小百合	白石 秀一
陶山奈生子	寺岡 貴之	中瀬 正和	中野 郁太	文字 拓麻	加藤友香子	神崎 典	佐野 裕二	塚田 徹
中田 未希	中谷美紗子	橋本幸太郎	古村 将治	松浦 優明	光田真梨子	秋山 一也	荒武 真浩	金井 美晴
川村明優美	北田 智之	熊野 翔太	河野 亜季	塩川 弘晃	野津 晃	廣瀬 志保	福島さゆり	藤田 裕一
古内麻由香	和田 知永	榎本真由美	仁義 陽子	外村 祐樹	高岡 公平	武村 有紀	玉置 里奈	中井 啓輔
永井 元	長澤 知美	中嶋 宏彰	西村 直樹	松井 梨里	有川慎一郎	池口 雅代	大谷 曜子	小磯 昌弘
坂口ゆかり	田端 三恵	長尾 彩香	中林 悟	濱崎 裕也	松田 麻美	村上 正季	山根耕一郎	吉野 晃司
市上 鷹一	大谷 真以	岡野 愛子	奥野 哲也	北田 悠賀	高地 美穂	田尻 雅裕	土手 良介	中川 太一
野島 隆史	橋本 武憲	星山 友香	安井 絢子	東 成樹	有田 美香	榎本 裕子	大坪 千穂	大橋 那渚
大部 俊輔	奥川あずさ	賀部 雄一	塩谷 辰悟	鹿田 敦史	武田 真也	寺尾 和章	直木 優子	仲野 彰
永松 ゆか	中元 敦子	平井 剛	水井 健太	赤星 哲也	福垣 香織	植田 恭子	岡山 拓人	金澤 朝希
川岸 麻穂	河野 武	下田かおり	福澤美由貴	福永 宏美	松形 樹	水井 啓太	三村 真由	村岡 慶祐
柳澤佐和子	横田 嵩平	吉井 和史	吉川 聡子	吉村 昌範				

市 夜 中 節

[昭和15年制作]

境 幸政 作詞・作曲

一、故郷を出る時 山家の猿も

今じゃ市岡夜中生

俺を知りたきや市夜中において

ヒゲの濃いのじゃ一人者

四、ストームやるなら 月夜の晩に

どなる市岡夜中生

俺を知りたきや市夜中において

ネブカ節なら一人者

二、試験来たなら 青色吐息

それで市岡夜中生

俺を知りたきや市夜中において

赤点ならんだ一人者

五、サイン・コサイン 英語に国語

なやむ市岡夜中生

俺を知りたきや市夜中において

イネムリするなら一人者

三、月もセンチな おぼろな夜に

つどう市岡夜中生

俺を知りたきや市夜中において

音頭とるなら一人者

六、故郷を出るときや 秀才なれど

今じゃ市岡夜中生

俺を知りたきや市夜中において

成績やピリから一人者



送 別 の 歌

[明治39年制定]

一柳安次郎 作詞
大橋純二郎 作曲

おし え のくざばー の しげ れ るいちおーか
かぜ ふ くあしたーも あめ ふ るゆうべーも
たゆま ずつとめーて きょう し もいくとーせ
たお れ るかつらーの かお り をみにおーい
あま れ るのぞみーの はな を ばてにしーて
いで ゆ くきみらーを われ ら はおくらーん

一、をしえの草葉の茂れる市岡

風吹くあしたも雨降るゆふべも
撓まらずとめて今日しもいくとせ
手折れる桂のかをりを身におひ
あまれる希望の花をば手にして
いでゆく君等を我等は送らむ

二、學びの海原遙けく廣らか

浮世の山坂峻しくごしき
日に夜に鍛へし勇氣を舵とし
心に磨きし正義を杖とし
撓まず過ぎ行け屈せず登れや
いざゆけ君等よ我等は送らむ

三、難波の入江のよしあし説き分け

互ひに導き共々こらしし
君等のみさとし忘れず勉めて
忠孝二道迷はずふみしめ
兄とも仰げる君等に報いん
いざ行け友どち我等は送らむ



『山の初夏』
小出 楯重 (旧中2期)

大正4(1915)年再興第二回院展
明治20年10月13日生。府立市岡中学校在学中から四条派の渡辺祥益に日本画を学ぶ。同40年同校を卒業し、東京美術学校西洋画科を受験するが、日本画科に編入され、小堀鞆音らに師事。西洋画への志が強く2年後に西洋画科一年に転入した。文展に出品を重ねるも落選が続き、院展に初入選したこの作品がデビュー作となった。大正8年に控牛賞、同9年二科賞を受賞。同12年二科会会員となる。同13年大阪に信濃橋洋画研究所を設立して後進の指導にあたった。谷崎潤一郎『夢喰う虫』の新聞挿し絵等でも知られ、文筆もよくした。昭和6年2月13日逝去。

